

## ティーチング・ポートフォリオ

戸澤純子

(2024年2月19日)

**1 教育の責任** (担当科目) 観光調査法 (1年、後期、必修選択科目、2単位)、観光心理学 (2年以上、後期、必修選択科目、2単位)、情報リテラシー (1年、必修科目)、情報処理1 (1年以上、前期) など

### 2 理念 (教育目標)

学ぶことは自分自身の現在の生活ばかりではなく、将来の活動にも影響を与える。加えて自分自身だけではなく、周囲の人たちにも大きな影響を与える。それは単に資格取得や就職などの直接的な活動に直結する以上に、重要な意味があることを大学生の時期に気づいてほしいと考えている。

大学時代に自ら積極的に学ぶ習慣を身につけ、問題に自ら気づき、主体的に問題解決を図る力を身につける機会を提供することを、どのような科目においても教育目標としている。

大きな教育目標としては、それぞれの科目について基礎的な知識を修得することと、ICTスキルを修得することである。

### 3 方法 (実践の工夫) と成果 (結果と評価)

#### 1) 基礎的な知識の修得

観光心理学は、観光に関する基礎的な理論科目である。このような科目の場合、教科書を使用しないことが多い。その代わりに事前にteamsに授業資料を配布しておく。パワーポイントで作成した授業資料は、理論や現象の要点、心理学実験の結果である図や表、概念図などから構成されている (エビデンス1)。

学生は授業を聞きながら自分のノートを取ることができるし、学生によっては授業前に紙に印刷して持ってくることで、パワーポイントスライドをノート代わりにすることもできる。

授業では教科書を使っていないために、パワーポイントスライドは授業の後に見返すために必要である。

このような工夫をすることによって、教科書を使用しなくても、基礎的な知識を繰り返して読み返すことで自分の身に着けることが可能になる。

加えてレスポンスシートを用意して、授業の疑問点や感想を書いてもらう。このことによって、授業内容がどの程度理解できたか、次回授業のためにどのような説明が必要かの準備となる (エビデンス2)。

#### 2) ICTスキルの修得

情報処理や情報リテラシーは基礎的な知識も重要であるが、ICTスキルを確実に身に着けることも重要な科目である。社会でPCを使用して仕事をするのに、いちいちマニュアル (インターネットで検索) を見なければ仕事ができないということでは効率が悪い。大学生のうちに、マニュアルなしでスキルを身に着けるために、これらの科目では教科書とコンピュータを使用している。

日本ではスマホで仕事をする会社よりも、圧倒的にコンピュータを使用して仕事をすることが多い。コンピュータは基礎的なものも専門的なものも含めて多様な知識を必要とするし、何といても面倒なので、学生はともすればスマホの方が便利という意見を持つ。しかし、使い慣れておくことで覚えることも可能であるために、コンピュータを必ず使うことにしている。

このような工夫で、コンピュータ関連の資格取得者を毎年輩出している。

#### 4 今後の目標

コロナ以降、コンピュータや teams を積極的に取り入れた授業を行ってきた。コロナ以前の対面授業は、事前の準備は丁寧に行っていたつもりでも、学生の授業内容の理解のためには、多くの点で不十分であることに気がついた。これからは授業前の資料配布、授業内容によっては文章ではなく作品の提出を求めることで、学生の学習意欲を高める工夫を行う予定である。

#### 5 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

- 1 パワーポイントで作成した授業資料（非公開）
- 2 授業終了後のレスポンスシート（非公開）

## ティーチング・ポートフォリオ

学科：観光文化 氏名：高山啓子

(記入日：2023年 9月 19日)

### 1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

基礎ゼミナール (必修 2 単位)、プレゼミナール 2 クラス (必修 2 単位)、観光概論 (必修 2 単位)、景観論 (選択必修 2 単位)、観光社会学 (選択必修 2 単位)、観光文化実践 II (選択必修 2 単位)、フィールドワーク法 (選択必修 2 単位)、観光文化専門演習(1)(2)、卒業研究、卒業研究演習、社会学 (選択必修 2 単位)、現代の社会 (選択必修 2 単位)、統計と社会 (選択 2 単位)、社会学概論 (選択必修 2 単位)、総合講座(2)コーディネーター (選択必修 2 単位) ジェンダー社会論基礎論(1) (大学院選択必修 2 単位)、メディア研究 I(1) (大学院選択必修 2 単位)、メディア研究 II(1) (大学院選択必修 2 単位)、メディア研究 III(1) (大学院選択必修 2 単位)、女性学専門研究演習 (大学院)

### 2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

社会のさまざまな現象 (観光を含む) に対して学生自身が関心を持ち、それぞれの問いを立て、分析できるような機会をつくること、またそれらを協同して行えるようになることを目指している。

### 3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

講義形式の授業 (景観論、観光社会学、社会学概論、社会学など) では、学生がその回のテーマに関する課題 (シラバス事前学修で提示したもの他) について自分の考えをまとめたものを提出するという方法をとっている。また授業内で複数の問いについて考えを述べてもらっている。Teams を活用して事前に資料をアップし、授業内では投稿機能やアンケート機能を使用して考えなどを書き込んでもらい、自分の意見をまとめるだけでなく他の学生の考え方や発想を知ることによって視野を広げてもらう工夫をしている。特に景観論と観光社会学では具体的事例をその都度紹介することで、歴史的経緯、現在の状況や課題をより関心を持って理解できるよう工夫している。

1 年次必修の「観光概論」ではテキストに基づき観光に関する基本的な知識を身につけてもらうこと、また観光に関するさまざまな現代の課題について自分の意見を持てることを目的とし、毎回の授業内でのコメント提出以外に、中間テストを 2 回実施しそれについて解説を行うことで、各自でその段階での理解度を把握できるようにしている。

「フィールドワーク法」「統計と社会」では、調査の方法を学ぶことを目的としているため、方法の説明や調査事例を紹介しながら、学生に各自で調査テーマ、仮説、調査方法、調査項目を考えてもらい、調査・集計・分析を実際に行ってもらっている。

「基礎ゼミナール」「プレゼミナール」「観光文化専門演習」などでは、文献や資料に基づく研究報告を行ない、ディスカッションによる相互の意見交換を行っている。特に 1 年次の基礎ゼミナール、プレゼミナール では大学での基礎

となる文献の検索と利用、新聞記事の読み方、レジュメの作成と発表、ディスカッション、グループワーク、レポート作成のそれぞれの方法について身につくよう実践してもらっている。

観光文化実践では「景観・観光まちづくり」をテーマに「豊島区景観形成特別地区」を対象とし、事前に豊島区景観計画を理解したうえで3地区について4回にわたってフィールドワークを実施した。一度のフィールドワークでグループ単位で該当地区の事前研究報告を行ってもらい、それに基づきフィールドワークで観察調査を実施し、事後調査報告を行ってもらった。最終的に個人で各地区の景観まちづくりと観光まちづくりのレポート作成、観光ガイドマップの作成を行ってもらった。

#### 4 成果（どうだったか：結果と評価）

各科目において、比較的学生の自主的な関心を高め、自分の考えを持たせることができた。学生によって、取り組みにばらつきはあるが投稿機能やアンケート機能を使用して意見を述べてもらい、相互にさまざまな意見を聞き、知識や考え方の幅を広げることができた。

1年次の基礎ゼミナールでは基本的な文献検索やレジュメ、レポートの作成、ディスカッションを行うことができていた。

観光文化実践のフィールドワークでは学生がフィールドに積極的に関心を持ち、フィールドでの観察調査をすることでより詳細で高度な知見を手に入れることができていた。またその結果を観光ガイドマップの作成という形で応用することもできていた。

#### 5 今後の目標（これからどうするか）

自主的な取り組みにばらつきがあるため、消極的な学生にそれを促す方法、また学生が積極的にディスカッションに参加する方法を検討したい。学生各自がさまざまな現象に関心を持ち、専門的知識を用いて理解、分析できるようになることを目指したい。

#### 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

授業で提出された課題、レポート（非公開）

## ティーチングポートフォリオ

学科：観光文化 氏名：高山啓子

(記入日：2024年 2月 20日)

### 1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

基礎ゼミナール (必修 2 単位)、プレゼミナール 2 クラス (必修 2 単位)、観光概論 (必修 2 単位)、景観論 (選択必修 2 単位)、観光社会学 (選択必修 2 単位)、観光文化実践 II (選択必修 2 単位)、フィールドワーク法 (選択必修 2 単位)、観光文化専門演習(1)(2)、卒業研究、卒業研究演習、社会学 (選択必修 2 単位)、現代の社会 (選択必修 2 単位)、統計と社会 (選択 2 単位)、社会学概論 (選択必修 2 単位)、総合講座(2)コーディネーター (選択必修 2 単位) ジェンダー社会論基礎論(1) (大学院選択必修 2 単位)、メディア研究 I(1) (大学院選択必修 2 単位)、メディア研究 II(1) (大学院選択必修 2 単位)、メディア研究 III(1) (大学院選択必修 2 単位)、女性学専門研究演習 (大学院)

### 2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

観光を含む社会のさまざまな現象に対して学生自身が関心を持ち、それぞれの問いを立て、調査・分析できるような機会をつくること、またそれらを協同して行えるようになることを目指している。

### 3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

※後期担当科目のみ記載

#### (1)講義形式の授業

学生がその回のテーマに関する課題 (シラバス事前学修で提示したもの他) について自分の考えをまとめたものを授業の最後に提出してもらうという方法をとっている。また授業内で複数の問いについて考えを述べてもらっている。Teams を活用して事前に資料をアップし、授業内では投稿機能やアンケート機能を使用して考えなどを書き込んでもらい、自分の意見をまとめるだけでなく他の学生の考え方や発想を知ることによって視野を広げてもらう工夫をしている。

○観光社会学：観光現象の具体的事例をその都度紹介することで、歴史的経緯、現在の状況や課題をより関心を持って理解できるよう工夫している。スライドに要点をまとめ、写真、グラフ、関連するウェブサイトを示しながら理解を促している。事例を用いたレポートを課題として提出してもらった。

○社会学：各回のテーマを身近なことから大きな社会の問題へと拡大させていくなかで、大きな社会の問題も自らのこととして考えられるように設定している。スライドで要点を示し、写真、グラフやウェブサイトなども使い、また参考文献をその都度紹介し、より理解を深められるようにしている。

#### (2)アクティブラーニングを取り入れた授業

基本的に講義形式と同様ではあるが、それに加え授業内で実践的な作業や意見交換を取り入れ、学生が主体的に取り組む工夫をしている。

○フィールドワーク法：フィールドワークという調査方法を学び、身に付けることを目的としているため、方法の説明やフィールドワークの研究事例を紹介しながら、学生各自が調査テーマ、フィールドワークの具体的な方法と調査項目の設定をおこない、第14回の授業においてフィールドワークの事前準備（仮説や調査項目、フィールドの概要を調べてまとめる）をおこなったうえで、各自が実際に課題解決型のフィールドワークを実施する課題を実践してもらい、第15回の授業においてフィールドワーク調査の結果報告を発表してもらっている。

○現代の社会：テキストを元に各回、内容を説明したうえで、現代の社会の複雑な諸問題について「自分はどうか考えるか、何を選択するか」という自分の問題として深く考えて記述してもらい、その考えを理由を含めて説明してもらっている。また学生同士が意見交換をすることにより、想像力や広い視野を持つような工夫をしている。

### (3)演習授業

演習形式で研究発表をしながら研究方法を身につけ、各自の研究テーマを掘り下げていってもらっている。

○プレゼミナール（1年次）：前期の基礎ゼミナールで学んだことを踏まえ、文献（専門の論文）の検索と利用、新聞記事の利用、レジュメと発表スライドの作成、グループワーク、発表、ディスカッション、レポート作成の方法が身につくよう実践してもらっている。グループワークでは観光庁による報告書を用い、課題の解決案を提示するプレゼンテーションをおこなってもらった。また個人研究では専門の論文を用いて考察をしたうえで、統計データや事例を提示して実証するという方法を実践してもらい、最終的にはレポートとしてまとめ、発表、提出してもらった。

○観光文化専門演習：前期のテキストでの学びを踏まえ、各自の研究テーマを設定し、専門の論文を中心とした参考文献を用いて、研究・発表・ディスカッションをおこなってもらっている。最終的に「ゼミ論文」を作成し、4年次での卒業研究につながる研究をおこなってもらった。

## 4 成果（どうだったか：結果と評価）

各科目において、学生の自主的な関心を高め、自分の考えを持たせることができた。学生によってばらつきはあるが投稿機能やアンケート機能を使用して意見を述べてもらい、相互にさまざまな意見を聞き、知識や考え方の幅を広げることができた。

観光社会学およびフィールドワーク法では、観光の具体的な事例を知ることにより観光についての関心を高め、その中から課題を発見し、自分の考えや意見を持つことができていた。また実践的応用への関心も高まっていた。

プレゼミナールでは基本的な文献検索やレジュメ、レポートの作成、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションを行うことができ、大学での研究の基本的な方法を身につけることができていた。

社会学、現代の社会では、社会のさまざまな問題を自らのこととして考えるということができていた。

#### 5 今後の目標（これからどうするか）

自主的な取り組みにまだばらつきがあるため、消極的な学生にそれを促す方法、また学生が積極的にディスカッションに参加する方法を検討したい。学生各自がさまざまな現象に関心を持ち、専門的知識を用いて理解、分析できるようになることを目指したい。

#### 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

授業で提出された課題、レポート（非公開）、授業評価アンケート

## ティーチング・ポートフォリオ

観光文化学科

氏名 小山 知子

(記入日：2023 年 9 月 4 日)

### 1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目 2023 年度前期)

観光英語 I (2 年前期必修科目 1 単位)

キャリア・プランニングⅢ(1) (選択必須科目、2 単位) 我孫子・目白

キャリア・プランニングⅣ(1) (選択必須科目、2 単位) 我孫子

観光文化実践 VIII (2~4 年前期選択必修科目 2 単位)

ホスピタリティ入門 (

観光文化専門演習 I (3 年必修科目 2 単位)

観光文化入門演習 (4 年必須科目、2 単位) など

### 2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

#### 観光英語 I

- ・理解度に合わせ、知りたいと思っていたこと、興味・関心があることを「英語で読めるようになる」→「聴けるようになる」→「表現できるようになる・話せるようになる」というステップで進め、受講生に英語を学ぶ楽しさと「自分の可能性の広がり」を実感してもらう。
- ・今年度から導入された CALL システムを活用し、ナチュラルスピードの会話のリズムをつかめるようにする。

#### キャリアプランニングⅢ (1)

- ・将来への模索に対応できるよう、自分の長所、強みは何かを知り、どの分野の能力を高めていきたいかを認識できるようになる。
- ・毎回の授業で SPI 頻出問題を解くことにより、得意、不得意分野を認識するとともに継続して学習することの意味を理解する。
- ・チームで課題解決型プロジェクトに取り組むことにより、思考力、提案力、プレゼンテーション力を身につける。

#### キャリア・プランニングⅣ(1)



- ・「自己 PR」と「学生時代に力を入れたこと」を作成し、インターンシップへの応募に備える。
- ・外部講師の先生方をお迎えし、社会に出るにあたっての心構えを学び、就職活動で求められるビジネスマナーを身につける。

### 観光文化実践Ⅷ

- ・インターンシップに参加するにあたって、段階的に準備を進めていく。自己理解、観光ホスピタリティ産業を中心とした業界理解、書類作成のほか、社会人と学生の違いについての認識を深める。
- ・航空会社国際線客室乗務員、シンクタンクでの経験を活かして、社会人として求められるビジネスマナーを実践的に身につける

### ホスピタリティ入門

- ・どの業態の仕事においてもホスピタリティは求められることを理解し、日常生活、アルバイト、サークル活動などにおいてホスピタリティを発揮していく。
- ・上記を踏まえ、どの業態でどのような場面でホスピタリティを発揮することが自分に合っているか、認識し、進路選択の幅を広げる。

## 3 方法（どのようにやっているか：実践の工夫）

### 観光英語 I

- ・授業冒頭で、その授業回のテーマに沿った自己紹介タイム“Happy Communication”を実施した。
- ・リスニング、リーディングの後、ペアでの役割練習を繰り返し実施した。
- ・英作文については、個別指導を行った。昨年度はレベル別の2クラス構成であったが、今年後は1クラスとなり、理解度に差が見られたためである。
- ・第15回終了時までにはCALLシステムを活用して指定されたスキットを録音し、提出してもらった。

### キャリアプランニングⅢ (1)

- ・SPI言語、非言語問題の授業回では、各自が問題に取り組み、解説を行った。
- ・「自己理解」授業回では、独自に「すごろく盤」と「フィードバックシート」を作成し、取り組んだ。

- ・課題解決型プロジェクトは、一次提案（学内の教職員によるフィードバック）  
⇒修正⇒最終提案（企業の方によるフィードバック）のサイクルで行った。

### キャリアプランニングⅣ（1）

- ・「自己 PR」については、教員が PROG の解説会を実施し、結果を見ながら授業内で作成してもらった。その後、2 回の添削指導に移行した。
- ・グループディスカッションは、企業の方を招いて実施した後、翌週に受講生だけでもう一度実施し、流れを体得できるようにした。

### 観光文化実践Ⅷ

- ・授業内でペアワーク、ディスカッションを繰り返し、受講生どうし、教員からのフィードバックを受ける機会を増やした。
- ・インターンシップ先に提出する書類については早い段階から準備をはじめた。担当者とのメールでのやり取り（お礼、報告など）、送付状の書き方については個別に対応した。

### ホスピタリティ入門

- ・航空会社（客室乗務員、整備士）、気象予報士、ホテル（帝国ホテル）、製造業（伊那食品工業）など、多岐にわたる業種、業界での顧客対応の事例をもとにケーススタディを行った。個人で「自分だったらどう考え、行動するか」を書き出し、ペアワーク、クラスでのディスカッションを行った。
- ・授業のテーマに即した「小レポート」を毎回の授業の最後に取り、提出を求めた。コメントを付して返却した。
- ・第 9 回ブライダル業界の事例紹介においては、椿山荘ブライダルサロンの渡辺氏を講師に招聘した。

## 4 成果（どうだったか：結果と評価）

### 観光英語 I

英作文を個別指導にしたことにより、理解不足の部分を質問する、早く解き終わった受講生は、わからない学生に教えたり、自主的に別の問題を解くなど、前向きに取り組むようになった。CALL システムに提出されたスキットはナチュラルスピードで話す受講生の声が録音されており、練習の成果が表れていた。

受講生からは、「以前よりも単語が覚えられるようになった」「リスニングが理解できるようになった」というコメントが寄せられた。後期も双方向型の授業を継続し、英語学習への意欲を高めていく。

### キャリアプランニングⅢ (1)

課題解決プロジェクトでは提案回数を 2 回にすることにより、より実務的な提案ができたと考えられる。我孫子、目白ともに全チームが企画アイデアコンテストに応募し、受講生たちは「やり遂げた」という手ごたえを感じることができたと考えられる。学部、学科の学生が共に学び、いろんなアイデアを出し合い、協力することができ、よい経験となったというコメントが多く見られた。

SPI については、徐々に解けるようになり、苦手意識が軽減されたという声が聞かれた。

今後の進路選択に向けて、具体的に何に取り組むとよいかを明確にすることができたと思われる。これらを後期の書類作成につなげ、進路探索行動の早期開始を目指す。

### キャリアプランニングⅣ (1)

「自己 PR」「学生時代に力を入れたこと」の作成は、多少の提出遅れはあったものの、単位取得者全員が完成することができた。4 名の添削指導の先生方のご協力によるものである。後期も継続してⅣ (2) を履修する学生が大半であることから、より自分らしい、納得のいく書類を作成し、就職活動につなげられるよう、努めていく。

### ホスピタリティ入門

毎回、ホスピタリティに関するケーススタディ、ワーク、ディスカッションのいずれかを組み合わせて実施したことにより、自発的に発言するようになった。特に第 13～14 回のプレゼンテーションでは、受講生自ら、発表者に対して拍手する、フィードバックするなど、話しやすい雰囲気づくりをしていた。授業をはじめ、アルバイト先、課外活動において自分が発揮できるホスピタリティを意識するようになったという声が多数聞かれた。

### 観光文化実践Ⅷ

全員がインターンシップ実習に参加した、授業目標は達成することができたと考えられる。後期は、実習での経験を振り返り、報告書の作成、成果報告プレゼンテーションを行いながら、今後のキャリア形成について考えていく。

#### 5 今後の目標（これからどうするか）

全体的にペア、グループワークを積極的に取り入れ、自然と自分の考えを述べることができるよう、努める。そして、教員からのフィードバックを増やし、受講生の自己肯定感を高められるようにする。また、PROGの結果も参照しながら、個々の学生の特徴を把握し、それぞれの能力の伸長を意識しながら、授業を進めていきたい。

#### 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

各授業の小テスト、テストの問題と結果（非公開）

各授業の PowerPoint、Word 資料（非公開）

Microsoft Teams の一般機能（非公開）

学生のレポート（非公開）

2023 年度前期授業評価アンケート

以上

# ティーチング・ポートフォリオ

学科：観光文化学科 氏名：小山 知子

(記入日：2024 年 2 月 19 日)

## 1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

### 後期

観光英語 II (2 年後期必修科目 1 単位)

観光英語特講 I (2~4 年選択必修科目 2 単位)

キャリア・プランニングⅢ(2) (選択必須科目、2 単位) 我孫子

キャリア・プランニングⅣ(2) (選択必須科目、2 単位) 我孫子

観光文化実践 X (2~4 年前期選択必修科目 2 単位)

観光文化専門演習 I (3 年必修科目 2 単位)

観光文化入門演習 (2 年必須科目、2 単位)

卒業研究演習 (通年・専門教育科目・必修)「卒業研究」(通年・専門教育科目・必修)

## 2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

担当授業では、本学の建学の精神「感謝の心」と「女性の自覚」を基盤とし、価値観の異なる他者への共感的理解を深め、対人コミュニケーション能力を身につけることを目標としている。経済や社会全体において目まぐるしく変転する予測困難かつ AGI (汎用人工知能) の実現の可能性を鑑みると、短時間で人との信頼関係を構築する力を備え、社会に出ることが求められるであろう。どの科目においても信念と自覚を持って行動し、相手に感謝する心を育てていきたい。最終的には自律的なキャリアを歩む力を養っていくことを教育目標としている。

## 3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

具体的には 90 分授業の中で「理論」と「実践」を組み合わせ、理解した理論をすぐに実践に移すことを繰り返す手法を取っている。学びを深めるには他者の力が必須である。その他者との良好な関係を築くには、上記の 2 つの建学の精神が必須であることを自ずと理解できるよう、指導している。

### 【理論】

英語科目「パターンを身につけ、表現を増やす」

受講生が英語の持つパターンの中で最も重要な基本文型を習得し、観光や接客場面に即した様々な表現に入れ替え、「この方法で話せるようになる」という認識を確立することを旨とする。

#### キャリア科目・実践科目・ゼミ

##### 「キャリア理論をもとにキャリアパースペクティブを持つ」

「不合理な信念」「計画された偶発性」「職業興味 (RIASEC)」などのキャリア理論をもとに①私たちはどうやって職業を選択肢、職業人となっていくのか、②働く意味は何か、③ワーク・ライフ・バランスを保つためにはどのようにすればよいのか、自分事としてとらえ、キャリアパースペクティブが持てるようになることを旨とする。

#### 【実践】

##### 英語科目「スキットづくりとロールプレイ～プレゼンテーション」

学んだ基本文型をもとに、個人またはグループで自分が英語で話せるようになりたい場面を想定し、英作文する。教員が添削指導し、完成した英文の音読練習を行う。ロールプレイで実践練習を重ね、英語の語感を養い、表現の幅を確実に広げている。

##### キャリア科目・実践科目・ゼミ「ゲスト講師との対話・現場見学」

キャリア・プランニングⅢ、Ⅳ、観光文化実践Ⅹ、観光文化入門演習、観光文化専門演習において関連する職業に従事する方々を招聘し、講義を行った。講師の話の聴いた後の授業では、「自分は今後どのようにになりたいのか」「そのためにはどのように行動するのか」を個人で考えた後、クラスでディスカッションした。学期末にはレポート提出を求めた。また受講生の興味関心に沿って、企業見学、インバウンド観光客へのインタビュー調査に出かけた。

## 4 成果（どうだったか：結果と評価）

### 観光英語Ⅰ（前期）、Ⅱ（後期）

授業評価はおおむね良好であった。授業冒頭で、その授業回のテーマに沿った自己紹介タイム“Happy Communication”を実施し、限られた時間内でできるだけ多くの学生と会話する時間を設けた。個人の取り組みでは、第15回終了時までCALLシステムを活用し、指定されたスキットをナチュラルスピードで録音させ、ほぼ全員が提出することができた。

後期はクラスを4つに分け、グループワークを取り入れた。受講生たちはレストランで

の接客場面を想定したスキットを作成し、第 14 回に成果プレゼンテーションを行った。

### 観光文化実践Ⅷ（前期）、Ⅹ（後期）

#### 前期

観光ホスピタリティ産業の先進的企業（ホテル、ブライダル）を研究し、教員と面談後に実習先の企業を決定した。自己紹介書を作成し、実習中の目標を明確に定めたのち、夏季休暇に 5 日間～1 か月の就業体験（インターンシップ）に参加した。

#### 後期

就業体験を振り返るとともに動画の作成、プレゼンテーションを実施した。年度末にはお世話になった企業の方を招いて成果報告会を実施した。さらにインターンシップ報告書を作成し、お礼状を添えてインターンシップ先に送付した。

### 観光文化入門演習

株式会社サンエー印刷を訪問し、従業員が働く職場を見学した。BtoB の企業では社員、顧客に対してどのようにホスピタリティを発揮しているか、また働く環境の整備と向上に向けてどのような取り組みをしているか、お話を伺った。期末レポートでは、今後どうやって職業を選択していくのか、考える契機になった、ワーク・ライフ・バランスを保つことの重要性を理解できたという記述がみられた。

### 観光文化専門演習

2 年次までの学びをベースに「インバウンド観光客は何を楽しみに日本に来るのか」という「問い」を立て、一年間かけてその答えを見出していくことができた。先行研究を検討した後、羽田空港国際線ターミナルビルを見学しながら、航空会社社員から訪日外国人旅行客の現状と今後の航空会社、空港の課題についてお話を伺った。また、皇居・日本橋：通訳ガイドの川名亘子氏のガイドツアーに同行し、インバウンド観光客の嗜好に関する理解を深めることができた。後期は卒業研究の方向性を検討し、3 名で共同研究を行うことに決まり、各自が自分の担当部分の執筆に精力的に取り組んでいる。

キャリアコンサルタントとして、就職活動の支援も行き、インターンシップにも積極的に参加していた。

### キャリア・プランニングⅢ（2）、Ⅳ（2）

授業は主担当として進め、授業評価はおおむね良好であった。グループディスカッション

ョン、グループワークにも回を重ねるごとに積極的に取り組むようになり、特に「働く意味」について、異なる価値観学生と対話することにより、自己理解を深めていったことが窺えた。

3回にわたり、我孫子キャンパスの教員4名でエントリーシートの添削指導を行った。昨年度、書類の仕上がりの時期が遅いという課題が上がっていたため、授業計画を見直し、インターンシップや就職活動の際、すぐに活用できるようにできたことは大きな成果であるとする。

## 5 今後の目標（これからどうするか）

今後も引き続き、人との信頼関係を構築する力を持って社会に出ていけるよう、信念と自覚を持って行動し、相手に感謝する心を育てていく。具体的にはペア、グループワークを積極的に取り入れたアクティブラーニングを主軸とし、受講生同士のコミュニケーションを深めていきたい。また、PROGの結果も参照しながら、個々の学生の長所、傾向を把握し、能力の伸長を促せるよう、授業を進めていきたい。

## 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

### 観光文化実践Ⅷ、Ⅹ

学生が作成した自己紹介書、成果報告書（非公開）

学生が執筆した「インターシップ報告書」（製本）

学生が作成した動画（Microsoft Teams に格納）

学生の活動記録（大学ホームページ、学科 NEWS にて公開中）

### 観光英語Ⅱ

学生が作成したメニュー表（非公開）

2024年1月19日千葉テレビキャンパスナビで放映（第14回授業風景）

### 観光文化入門演習

学生の活動記録（大学ホームページ、学科 NEWS にて公開中）

### 観光文化専門演習

学生が作成した4か国語アンケート（Microsoft Teams に格納）

学生が作成した案内ボード（非公開）

学生の活動記録（大学ホームページ、学科 NEWS にて公開中）



## キャリア・プランニング

学生のレポート、エントリーシート（非公開）

## その他

各授業の小テスト、テストの問題と結果（非公開）

各授業の PowerPoint、Word 資料（非公開）

# ティーチング・ポートフォリオ

【2023（令和5）年度前期】

観光文化学科 氏名：櫻井 正

（記入日：2023年9月10日）

## 1 教育の責任（何をやっているか：担当科目）

- ◇観光文化（日本）必修
- ◇観光文化専門演習（1）必修
- ◇観光マーケティング
- ◇キャリア・プランニングⅣ（1）
- ◇観光文化実践Ⅲ

### ◇観光文化（日本）必修

## 2 理念（なぜやっているか：教育目標） Plan

- (1) 日本各地の様々な伝統文化および自然を利用した観光の歴史や特徴を理解している。
- (2) 文化を活用した持続可能な観光振興の在り方を考察する能力を有している。
- (3) 日本の伝統的文化の保存とその問題点について論じることができる。

## 3 方法（どのようにやっているか：実践の工夫） Do

本科目の教育目標（到達目標）を踏まえ、観光文化論の理論（細目）を土台として、日本各地の文化を軸とした観光振興の特徴とその課題を、事例紹介を交え（input）ながら学び、プレゼンテーション(output)の両輪で授業を構成する。プレゼンテーションはAISASの法則（購買行動モデル）に則って、自然景観・都市・温泉・観光地（施設）・食の中から2つ以上選びおこなう。

## 4 成果（どうだったか：結果と評価） Check

プレゼンテーション（発表）内容、授業中のリアクションレポート、期末試験により学修成果をはかった。プレゼンテーションについては、回を重ねる毎に精度があがっていった。これは他者評価をリアクションレポートでおこなうことに起因していると考えられる。授業評価アンケートにおいては「総合的に判断し、この授業に満足できましたか」の設問に対し、「そう思う」「どちらかというと思う」の回答を合わせて100%であった。またコメントとして旅行会社目線（集客ビジネス）からの指摘が良かったという声もあった。

## 5 今後の目標（これからどうするか） Action

参観授業対象科目であった。参観頂いた教員からプレゼンテーションに対するフィードバック方を改善するようご指摘を頂いた。フィードバックの深耕が来年への課題であると考えている。

## 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

- ・リアクションレポート（非公開）
- ・授業Power Point資料（非公開）
- ・授業評価アンケート（非公開）

## ◇観光文化専門演習(1) 必修

### 2 理念(なぜやっているか:教育目標) Plan

- (1)理論研究(第4~10回)では知識を習得し、論じることができる。
- (2)応用研究(第11~14回)では事業計画に則った企画を遂行するために「プロジェクトコンセプトシート」を作成できる
- (3)夏合宿(フィールドワーク)において、他者と協働した行動を主体的に行うことができる

### 3 方法(どのようにやっているか:実践の工夫) Do

櫻井ゼミナールのテーマである「観光経営人材育成プログラム開発」は各業種における職務遂行能力を理論と実践から獲得し、職業的レリバンス(観光教育とその先の企業との接続)を図っていく。『観光文化専門演習(1)・(2)』においては「リゾート型民泊ビジネス(バケーションレンタル)」・「日帰りバスツアービジネス」を題材として、社会に還元できる研究テーマの設定を各自がおこない、企画・実践した社会実装活動を評価していく。

### 4 成果(どうだったか:結果と評価) Check

本年度からの勤務であるため、DP7:社会規範(様々な人々との協働を通して、社会の規範やルールに従って行動ができる)を到達すべくチームビルディングにかなりの時間を費やしたが未だ未達である。

学修成果のアウトプットを8/27開催のオープンキャンパスにおいて観光文化学科体験授業「お泊り推し活プラン発表会」でおこなった。来場者アンケートでは「本日の企画の中で一番参考になった、又は印象に残ったものを教えてください」の質問項目において高評価を頂いた。従って応用研究については、一定の成果をだしたと考える。

### 5 今後の目標(これからどうするか) Action

理論研究に触れる機会が少なかったのが次年度への課題であると考え。このあたりは後期科目である観光文化専門演習(2)でフォローしていく。またチームビルディングについては、2年時のゼミである観光文化入門演習において基礎づくりをおこないたい

### 6 エビデンスとなるもの(資料の種類などの名称)

- ・リアクションレポート(非公開)
- ・授業Power Point資料(非公開)
- ・8月27日オープンキャンパスアンケート(非公開)

## ◇観光マーケティング

### 2 理念(なぜやっているか:教育目標) Plan

- (1)マーケティングの基礎理論を理解できる。
- (2)マーケティング理論が観光産業において実際にどのように活用されているのか理解できる。

### 3 方法(どのようにやっているか:実践の工夫) Do

観光に関わる事業において、観光客の真に求める観光行動とニーズの実現をどのように目指し、同時に事業目的および地域利益を達成するのか、その過程を学ぶ。マーケティングの基礎理論を学修したうえで、それが観光ビジネスの現場において実際にどのように展開されているのか、星野リゾートが運営するホテル・旅館をケース・スタディとして取り上げていく。具体的には講義の冒頭とクロージングで解説をおこない(input)、授業内においては教科書のレジュメを作成していく(output)

### 4 成果(どうだったか:結果と評価) Check

授業内でのレジュメの作成、リアクションレポート、期末試験で学修成果をはかった。教科書

のレジュメ作成については、記載事項のマニュアルに準じて作成を指示した。なかでも「コメント」欄には、自身で調べたことや、考えたことなどを記入すること、という教授を都度おこなったが、理解が行き届かない学生が一部見られた。

期末試験は、観光マーケティングの知識を活かして、課題を解く応用問題の出題形式をとり入れた。授業評価アンケートにおいては「総合的に判断し、この授業に満足できましたか」の設問に対し、「そう思う」の回答が100%であった。またリアクションレポートでは「4年間の授業で一番良かった」とのコメントも頂いた。

#### 5 今後の目標（これからどうするか）Action

授業評価アンケートにおいて「この授業を受講するにあたりどの程度事前学習と事後学修を1週間に平均何時間程度おこないましたか」との設問に「ほとんどしない」が67%であった。このあたりを次年度の課題とし、自ら学びたくなるテーマを設定していく。

#### 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

- ・作成したレジュメ（非公開）
- ・授業 Power Point 資料（非公開）
- ・『星野リゾートの教科書』日経 BP 社（公開）

### ◇キャリア・プランニングⅣ（1）

#### 2 理念（なぜやっているか：教育目標）Plan

- (1) インターンシップにエントリーするための、エントリーシートの作成ができる
- (2) 就職活動に必要な知識や技術、手順を理解することができる

#### 3 方法（どのようにやっているか：実践の工夫）Do

担当教員、目白事務室、マイナビ等就職関連業務に従事している外部講師とが一体となった授業運営をおこなう。就職活動の必須条件となりつつあるインターンシップへの参加を目指す。

#### 4 成果（どうだったか：結果と評価）Check

エントリーシートの作成、各種レポート、グループディスカッションへの貢献・参加度で学修成果をはかった。エントリーシートは2回の作成と添削を学部学科教員が一体となりおこなった。アセスメントとして適性能力検査やPROGを活用した自己PRを試みた。

授業評価アンケートにおいては「総合的に判断し、この授業に満足できましたか」の設問に対し、「そう思う」「どちらかというと思う」の回答を合わせて90%であった。

#### 5 今後の目標（これからどうするか）Action

授業評価アンケート自由記述欄において、「ゲストスピーカーが1.2年時の履修の際と被る方がいた」というコメントがあり、本科目に限らず、キャリアプランニングのⅠ～Ⅲの制度設計をキャリアセンターとともに再検討したいと考える。

授業15コマで1セット（インターンシップ対策）となる制度設計であるが、途中欠席者が多い。このあたりを学生にインタビュー調査をおこない、改善の礎としたい。

#### 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

- ・PROGの結果（非公開）
- ・適性能力検査模擬試験（非公開）
- ・授業 Power Point 資料（非公開）

## ◇観光文化実践Ⅲ

### 2 理念（なぜやっているか：教育目標） Plan

- (1) NPO 法人地域振興支援センターの諸活動を学ぶことにより、当該 NPO 法人の社会的な役割を理解することができる。
- (2) 東京都都有地である汐留イタリア街における、賑わいイベント企画を創出するために、積極的な発言やグループワークを通じてコミュニケーション、コラボレーションする力を身につけることができる

### 3 方法（どのようにやっているか：実践の工夫） Do

NPO 法人地域振興支援センターからゲストを招き、展開していく課題解決型授業である。具体的には『汐留西地区都有地活用プロジェクト』のまちづくりコンセプトである”地域が育む魅力的な空間と連携し、持続的な賑わいのある街を形成”に向けて、学生ならではの目線からイベントの企画立案、オペレーションに参加することを目的とする。

### 4 成果（どうだったか：結果と評価） Check

最終プレゼンテーション（企業評価）、各種レポート、グループディスカッションへの貢献・参加度で学修成果をはかった。

課題に対する提案として2点。1つ目は、キーワードを「少子高齢化と婚活」として、汐留イタリア街に因み、ベネチア発祥といわれている mascarade（仮面舞踏会）をテーマとした婚活イベントを提案。2つ目はキーワードを「まちづくりの賑わいの演出」として、ストリートピアノの設置。多様性を重視した「イタリアワイン会」や「イタリアマルシェ&アート体験」を提案した。

当該 NPO 法人からは高い評価を頂き、2024 年 4 月に OPEN する汐留イタリア街ビレッジにて、いずれの企画も実施に向けて取組んでいきたいという言質を頂いた。

### 5 今後の目標（これからどうするか） Action

本企画の実施に向けて、次年度の授業においては、オペレーション体制を充実させた授業内容を展開していく。

### 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

- ・ 学生作成プレゼンテーション資料（非公開）
- ・ 川村学園女子大学ニュース NO.2019（公開）
- ・ 川村学園女子大学ホームページ「学科 News」（公開）

（記入日：2024年2月15日）

1 教育の責任（何をやっているか：担当科目）

- ◇観光文化入門演習 必修
- ◇観光文化専門演習（2）必修
- ◇キャリア・プランニングⅣ（2）
- ◇観光文化実践Ⅵ
- ◇外食産業論
- ◇旅行業務取扱管理者講座（2）履修者なし

◇観光文化入門演習 必修

2 理念（なぜやっているか：教育目標） Plan

- (1) 旅行商品造成の How-to を理解し、応用できる。
- (2) バケーションレンタル（民泊）の商品特性を理解し、興味を持った項目についてプレゼンすることができる。
- (3) 「カワジョ時間」（自身の大学生活）をセルフプロデュースすることができる。

3 方法（どのようにやっているか：実践の工夫） Do

本科目の教育目標（到達目標）に準じて授業をおこなうが、履修生（ゼミ生）が2名であるため本人の理解度にあわせて展開していった。櫻井ゼミナールのテーマである「観光経営人材育成プログラム開発」の入門編である。『専門演習（1）（2）』が応用編となる。そして社会に還元できる研究テーマの設定をしていく『卒業研究』で完結する。担当教員の旅行会社企画部門における売れる商品造成の経験知、バケーションレンタル（民泊）の経営を通じて培った諸理論に基づき、文献購読を中心に学修し、受講生が観光関連産業に興味・関心が持てることを目的とする。

4 成果（どうだったか：結果と評価） Check

授業中のリアクションレポート、論文のレジュメ資料作成、ジョブカード様式1-2「キャリアプランシート」により学修成果をはかった。また「としま MONO つくりメッセ」への参加が予定されたことにより、農業観光の分野を後半の授業では多く扱った。必然的にパーソナルな対応となるので、適度な距離感で意思疎通が図れていると感じている。

5 今後の目標（これからどうするか） Action

ゼミ募集の段階から、到達目標を明確に開示して募集をおこなっていきたい。また現役ゼミ生をゼミ募集時のプレゼンテーションに加えることにより、入ゼミ要件を工夫していきたい。

6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

- ・論文のレジュメ作成資料（非公開）
- ・ジョブカード様式1-2「キャリアプランシート」（公開）

◇観光文化専門演習（2）必修

2 理念（なぜやっているか：教育目標） Plan

- (1) 理論研究（第2～6回）では知識を習得し、論じることができる。
- (2) 応用研究（第7～10回）では事業計画に則った企画を遂行するためにプレゼンテーションを

することができる。

(3) 卒業論文作成に向けての知識を理解できる。

### 3 方法（どのようにやっているか：実践の工夫） Do

櫻井ゼミナールのテーマである「観光経営人材育成プログラム開発」は各業種における職務遂行能力を理論と実践から獲得し、職業的レリバンス（観光教育とその先の企業との接続）を図っていく。『観光文化専門演習(1)・(2)』においては「リゾート型民泊ビジネス（バケーションレンタル）」・「日帰りバスツアービジネス」を題材として、社会に還元できる研究テーマの設定を各自がおこない、企画・実践した社会実装活動を評価していく。

### 4 成果（どうだったか：結果と評価） Check

「ゼミナール報告書」と「卒業論文」の2点を中心に評価をおこなった。双方において卒論の型である、表紙・はじめに・研究方法・自身の研究する概要の記述をしてもらった。やや稚拙な内容ではあるが、論文としての型は一定の理解を得たと考える。

### 5 今後の目標（これからどうするか） Action

今年度に引き続き「ゼミナール報告書」と「卒業論文」を中心に評価をしていく。また、そこに至る過程に工夫をしていきたい。（夏合宿の実施など）

### 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

- ・「ゼミナール報告書」（公開）
- ・卒業論文（非公開）

## ◇キャリア・プランニングⅣ（2）

### 2 理念（なぜやっているか：教育目標） Plan

就業に向けた対策を実践的に学び、自身が志望する卒業後の進路を実現するスキルを身に付けることを目標としている。

### 3 方法（どのようにやっているか：実践の工夫） Do

担当教員、目白事務室、マイナビ等就職関連業務に従事している外部講師とが一体となった授業運営をおこなう。業界研究をはじめ、エントリーシート・面接対策など実際の就職活動を想定した実践的な授業をおこなった。

### 4 成果（どうだったか：結果と評価） Check

エントリーシート・履歴書・キャリアプランシートの作成、グループディスカッションへの貢献・参加度で学修成果をはかった。エントリーシートは3回の作成と添削を学部学科教員が一体となりおこなった。アセスメントとして適性能力検査や大学指定履歴書を活用した。

授業評価アンケートにおいては、前期から一転し評価が分かれた。考えられる要因として夏休みにおけるインターンシップの参加回数が各自異なり、授業に求めるレベルが高度化している学生が散見した。ある意味、職業教育（キャリア教育でない）を集合教育でおこなうことの限界であろうと考えられる。

### 5 今後の目標（これからどうするか） Action

集合教育とパーソナル対応とが併用した授業づくりが肝要かと考える。翌年度は我孫子キャンパスの学生への授業もおこなうため、学部学科特性を考えた授業内容で教授していく所存である。

### 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

- ・大学指定履歴書（非公開）
- ・適性能力検査模擬試験（非公開）

## ◇観光文化実践VI

### 2 理念（なぜやっているか：教育目標） Plan

- (1) 観光情報をどのようにして伝えるのか地理的要素をベースとし、供給側の視点から考察することができる
- (2) プランニングを通して観光関連産業の裾野の広さを理解し、観光によるイノベーションに気づき説明できる

### 3 方法（どのようにやっているか：実践の工夫） Do

加藤菜園園主（南房総市）、アート引越センターの人事担当者をゲストに招き、観光が持つチカラでどのようなイノベーションを起こすことができるのかを展開していく課題解決型授業である。具体的には農業が抱える問題である、高齢化による担い手不足、耕作放棄地の増加などを学生ならではの目線からイベントの企画立案、オペレーションに参加することを目的とする。

### 4 成果（どうだったか：結果と評価） Check

課題提出、各種レポート、グループディスカッションへの貢献・参加度で学修成果をはかった。課題の1つとして、「としま MONO づくりメッセ」（2024.2.29～3.2）への出店準備をおこなった。キーワードを「菜花のテーマパーク構想 in 南房総（菜花リゾート）」として産直菜花の販売をおこなう。

### 5 今後の目標（これからどうするか） Action

本企画の実施に向けて、次年度の授業においては、オペレーション体制を充実させた授業内容を展開していく。

### 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

- ・ 学生作成プレゼンテーション資料（非公開）
- ・ としま MONO づくりメッセご招待状（公開）

## ◇外食産業論

### 2 理念（なぜやっているか：教育目標） Plan

- (1) 外食産業の事業特性を事業者ごとのミッションステートメント、経営戦略（全社戦略・事業戦略・機能別戦略）から理解することができる
- (2) 訪日外国人（インバウンド）の来訪目的の1つである日本食について、洞察することができる

### 3 方法（どのようにやっているか：実践の工夫） Do

外食産業の歴史的変遷と現代の業態を学ぶことでホスピタリティ産業の1つである外食産業の構造や特性について理解する。

具体的には外食産業の歴史的変遷は教科書から学び、現代における業態については毎時間おこなう受講者のプレゼンテーションをベースにグループワーク、その後解説を加えた。

### 4 成果（どうだったか：結果と評価） Check

業態別のプレゼンテーション、リアクションレポート、期末試験で学修成果をはかった。

教科書からの学びとしては、産業としての外食について、江戸時代に原点があることや、大阪万博を通じて産業化が図られたことなどの学びを得たようである。

プレゼンテーションについては「外食産業が身近になり、知らなかったお店を知ることができた」などのコメントが寄せられた。

期末試験は、外食産業を取り巻く環境・課題に関する資料を読み、要約し、それに対して自身の考えを書く課題を課した。また、本講義からの学びを自分の人生にどういかせるかという問いに対して「人生のなかで、楽しく食事をするために外食産業を学ぶことは大切なのでは



ないかと考えた」というコメントが印象に残っている。

5 今後の目標（これからどうするか） **Action**

リアクションレポートにおいて、既に記載の通り外食は受講者にとって利用することは元よりアルバイト等を通じて身近である。ゆえに外食産業論として学ぶことに気づきが多いようである。このあたりを次年度においては深堀し、さらにインバウンドについても触れ、自ら学びたくなる授業を展開していく。

6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

- ・授業 Power Point 資料（非公開）
- ・リアクションレポート（非公開）

## ティーチング・ポートフォリオ

学科：観光文化学科 氏名：江口智子

(記入日：2023年9月25日)

### 1 教育の責任（何をやっているか：担当科目）

担当科目は、「基礎ゼミナール」（前期、必須科目、2単位）、「観光経営学」（前期、選択必須科目、2単位）、「観光の情報デザイン（1）」（前期、選択必須科目、2単位）、「観光英語基礎Ⅰ」（前期、必須科目、2単位）、「観光文化実践Ⅴ」（前期、選択必須科目、2単位）、「観光文化専門演習（1）」（前期、必須科目、2単位）、「卒業研究演習」（4年次通年、必修科目、4単位）である。

### 2 理念（なぜやっているか：教育目標）

国として観光立国が志向されるなか、観光を学ぶ学生に対する社会からの期待や、その課題、問題が現在の社会にどのように存在しているのかを伝えたいと考えている。特に、観光を経営的な視点から捉え考察することができる力を養ってもらいたい。また、多様な生き方を選択することができる現代において、自分らしく生き、個性と能力を発揮するために必要な学問的知識、実践的知識を習得し、品格を兼ね備えた人材を育成したいと考えている。そのためにも、自主的に学ぶ姿勢を身につけ、レポート執筆やプレゼンテーション、ディスカッションの経験を重ね、自信を持って自分の考えを文章や言葉で伝えるスキルを身につけてもらいたい。

### 3 方法（どのようにやっているか：実践の工夫）

①講義型の科目では、学生が飽きないような環境作りを行っている。できるだけ大きな字で視覚情報を豊富に使用した資料を作成し、講義を進めている。授業の途中には、質問を投げかけ手を挙げてもらうなどし、学生同士での議論や発表、ミニレポートやリアクションペーパーの記入など、学生が飽きず一方向にならない分かりやすい授業作りに力を入れた。また、現場で活躍する専門家から話を聞くことができる貴重な機会としてゲスト講師を招いた。

②実践型の科目においては、観光における理論が社会の中でどのように実践されているのかを学ぶことを目的としている。「観光文化実践Ⅴ」では、JR東日本グループ傘下のホテルを題材とし、ラグジュアリー・ホテル、シティ・ホテル、バジェット・ホテルに分類されるホテルが、どのような戦略で経営されているかを調べ研究した。東京ステーションホテル（東京）、ホテルメトロポリタン（池袋）、ホテルメッツ（目白）を訪問し、ホテルの隅々ま

で見学をし、最終授業で行った各ホテルの収益構造の特徴、顧客ターゲット・主力商品、経営状況の評価、強みや弱みについての発表に大いに役立った。「観光の情報デザイン (1)」では、いま注目されている観光情報の「動画」による提供スキルを身につけるべく、フィールドワーク実施し散歩動画の制作を行った。

③演習型の科目では、主体的に学ぶ力を学生に身につけてもらうため、一方的な指導で終わらない双方向の対話による指導を心がけた。さらに、多くの学生が苦手意識を持っている「集団のなかで発言する・発表する」ことに慣れてもらうため、発言しやすい雰囲気作りに努めた。そのうえで完成度の高いレポートや論文を書く力を養うべくレポートや卒業論文の作成方法などを適宜助言し、添削しレビューすることを繰り返した。

#### 4 成果（どうだったか：結果と評価）

①講義型の科目では、学生が飽きず一方向にならない分かりやすい授業作りを心がけていたことや、ゲスト講師に登壇いただいたことで、学生の発言や発表の場、コミュニケーションの場が多々あり意欲的に学修できた学生が多かったと感じている。

②実践型の科目では、机上の理論ではない実際のホテルの現場がどのように運営されているのか、経営的な視点で見学し支配人の話を伺うことによって、理解が深まり貴重な経験ができたという感想が多かった。また現場にでかけることで服装や態度、言葉使いなどに気を遣い立ち振る舞うことを経験し、社会で役に立つ様々な実践的なスキルが身についたと感じた学生が多かった。動画作成は、初めて経験した学生がほとんどであったが、企画し撮影し編集するまでのプロセスを経験し、動画作成スキルを身につけることができ嬉しいという学生が目立った。しかしながら完成動画のクオリティに差が見られ、今後は動画作成に関する一定の基準を設ける必要があると考えている。

③演習型の科目では、双方向対話によって主体的に学び、発言・発表に慣れることを目指した成果として、発言・発表への苦手意識を克服した学生が一部見受けられた。しかしながらまだ苦手意識を持つ学生が多く、新たな指導方法の取り組みが必要であり今後の課題としたい。レポートや論文に関する文章作成能力は向上が見られた。

#### 5 今後の目標（これからどうするか）

今後も、これまでと同様かつさらに、学生が分かりやすく飽きない授業を行っていきたいと考えている。学生ひとりひとりをよく見ながら、学生が社会で活躍するために必要な学問的知識、実践的スキル、自分を表現し他者と良い関係を持つためのコミュニケーション能力を身につけることができる教育に力を入れていきたい。

## 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

各授業の PowerPoint 資料（非公開）

リアクションペーパー（非公開）

学生のレポート（非公開）

完成した散歩動画（非公開）

## ティーチング・ポートフォリオ

学科：観光文化学科 氏名：江口智子

(記入日：2024年2月25日)

### 1 教育の責任（何をやっているか：担当科目）

担当科目は、「プレゼミナール」（後期、必須科目、2単位）、「観光英語基礎Ⅱ」（後期、必須科目、1単位）、「観光文化専門演習（2）」（後期、必須科目、2単位）、「観光の情報デザイン（2）」（後期、選択必須科目、2単位）、「リーダーシップ論」（後期、選択必須科目、2単位）、「簿記（2）」（後期、選択科目、2単位）、「キャリア・プランニングⅠ」（後期、選択科目、2単位）、「キャリア・プランニングⅢ（2）」（後期、選択科目、2単位）、「卒業研究演習」（4年次通年、必修科目、4単位）である。

### 2 理念（なぜやっているか：教育目標）

大学教育の目的は、①社会に貢献し、自分の夢を叶え得る様々なスキルを習得すること、②持って生まれた個性や能力を磨き、自分らしく生きていくための自主性を鍛えること、であると考えている。生き方が多様化した現代に生きる女性として、卒業後に個性と能力を発揮し、自分らしく生きるために必要な学問的、実践的知識・スキルを身につけ、品格を兼ね備えた自主性ある人材を育成したい。そのために学生には、自主的に学ぶ姿勢を基本として学問的知識を習得し、レポート執筆やプレゼンテーション、ディスカッションの経験を重ね、自信を持って自分の考えを文章や言葉で伝えるスキルを身につけてもらいたい。さらに社会人基礎力を高めるために、グループワークを通じて他人とともに、実践のなかでコミュニケーション力や論理的思考力を鍛える訓練を積み重ねてもらいたいと考えている。

### 3 方法（どのようにやっているか：実践の工夫）

① 講義型の科目では、学生が飽きないような環境作りを行っている。できるだけ大きな字で視覚情報を豊富に使用した資料を作成し、講義を進めている。パワーポイント資料に加えて、内容に関連した短い動画視聴を取り入れ、大事な点は板書するなどして学生の集中力を切らさないように心がけた。授業の途中には、質問を投げかけ手を挙げてもらうなどし、学生同士での議論や発表、ミニレポートやリアクションペーパーの記入など、学生が飽きず一方向にならない分かりやすい授業作りに力を入れた。また、現場で活躍する専門家から話を聞くことができる貴重な機会としてゲスト講師を招いた。

② キャリアに関する科目、「キャリア・プランニングⅠ」、「キャリア・プランニングⅢ（2）」

では、教育理念で挙げた「①社会に貢献し、自分の夢を叶え得る様々なスキルを習得する」、  
「②持って生まれた個性や能力を磨き、自分らしく生きていくための自主性を鍛える」ための  
ベースとなる教育を行うことに力を注いだ。自分の夢を叶えるためには、まずは行きたい  
企業の就職試験を突破しなければならず、自分らしく生きていくためには、自分の個性や能  
力をまず知らなければならない。キャリア・プランニングⅠでは1年生を対象に、自分の過  
去を振り返り自己の個性（強み）を見つけ出せるよう、分かりやすい自己分析用シートを数  
種類用意し、自己分析に取り組んでもらった。キャリア・プランニングⅢ（2）では、就職  
試験を突破できるよう、特に SPI 対策に力を入れた。履修生のレベルに合わせた例題を一  
緒に解き丁寧な解説を心がけるとともに、一度解いた問題を忘れないよう、次の授業時に再  
び解いてもらうようにした。

③ 演習型の科目では、主体的に考え学ぶ力を学生に身につけてもらうため、学生ひとりひ  
とりの理解力に合わせた双方向の対話による指導を心がけた。特に1年生のプレゼミナ  
ルでは、大学での学びに必要な基礎的スキル（テーマを設定し、調べ、考え、他者に伝える）  
を確実に身につけてもらうべく、授業のなかで短い個人指導の時間を設け、各自の理解力に  
応じた指導を行った。プレゼンテーションでは、発表を聞いた学生に評価シートを記入させ、  
教員のみならず学生ひとりひとりからのレビューを発表者が受け取ることができるように  
し、今後の成長につなげてもらうようにした。

#### 4 成果（どうだったか：結果と評価）

① 講義型の科目では、学生が飽きず一方向にならない分かりやすい授業作りを心がけて  
いたことや、ゲスト講師に登壇いただいたことで、学生の発言や発表の場、コミュニケーション  
の場が多々あり意欲的に学修できた学生が多かったと感じている。

② キャリア・プランニングⅠでは、自己分析にはじめて取り組み、自分の強みを他者に論  
理的に伝える力を身につけることを目指した結果として、「気がついていなかった自分の強  
みに気がつけた」、「説得力ある根拠を示すことが大切だと理解できた」、「自己分析用シー  
トに沿って考えていく手順が分かりやすかった」などの意見があり、提出された自己 PR シ  
ートからは、自分の強みを根拠とともに示すことができていた学生が多く見受けられた。キャ  
リア・プランニングⅢ（2）では、SPI（特に非言語問題）に対して苦手意識を持つ学生が多  
くいたが、例題をこなすうちに「できた」と手を挙げる学生数が次第に増え、少しずつ自信  
をつけてもらうことができた。しかしまだ苦手意識を持つ学生が多く、今後も丁寧な解説と  
理解を定着してもらう指導を心がけていく。

③ 演習型の科目では、双方向対話によって主体的に学び、自分で調べ、考え、発表することに慣れることを目指した成果として、前期と比較して大学での学びの基礎的スキルが大幅に向上した学生が見受けられた。しかしながらまだ苦手意識を持つ学生もおり、新たな指導方法の取り組みが必要であり今後の課題としたい。レポートや論文に関する文章作成能力は多くの学生で向上が見られた。

## 5 今後の目標（これからどうするか）

今後も、これまでと同様かつさらに、学生が分かりやすく飽きない授業を行っていきたいと考えている。学生ひとりひとりをよく見ながら、学生が社会で活躍するために必要な学問的知識、実践的スキル、自分を表現し他者と良い関係を持つためのコミュニケーション能力をはじめとした社会人基礎力を身につけることができる教育に力を入れていきたい。

今後日本が多様な人種が共存する社会へ移行していくなかでは、学生にとってはいままです以上に「個性という自分らしさ」や「自分の意見を持ち発信する力」、「他者を理解する力」が重要になるだろうと考えている。本学は、自己肯定感が低い学生が多いと感じているが、自分を再発見し、自分の個性や意見を大切にしながら他者ともよい関係を築くことができるようになってもらいたい。そのために、日々の授業のなかで学生が小さな成功や自信を積み重ね、少しでも自己肯定感が高まっていくような教育を実施していきたい。

## 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

各授業の PowerPoint 資料（非公開）

リアクションペーパー（非公開）

自己 PR シート（非公開）

学生のレポート（非公開）

# ティーチング・ポートフォリオ

学科：観光文化学科 氏名：山田祐子

(記入日：2023年8月29日)

## 1 教育の責任（何をやっているか：担当科目）

### 前期

「観光事業論」（前期・専門教育科目・必修）、「観光文化総論(1)」（前期・専門教育科目・必修）、「観光文化専門演習(1)」（前期・専門教育科目・必修）、「卒業研究演習」（通年・専門教育科目・必修）、「卒業研究」（通年・専門教育科目・必修）、「旅行事業論」（前期・専門教育科目・選択必修）、「ホテル・マネジメント論」（前期・専門教育科目・選択必修）、「コンシェルジュ論」（前期・専門教育科目・選択必修）、「観光文化実践Ⅶ」（前期・専門教育科目・選択必修）

### 後期

「温泉地理学」（後期・共通教育科目・選択必修）、「観光文化総論(2)」（後期・専門教育科目・必修）、「観光文化入門演習」（後期・専門教育科目・必修）、「観光文化専門演習(2)」（後期・専門教育科目・必修）、「卒業研究演習」（通年・専門教育科目・必修）、「卒業研究」（通年・専門教育科目・必修）、「ブライダル事業論」（後期・専門教育科目・選択必修）、「観光文化(江戸・東京)」（後期・専門教育科目・選択必修）、「観光文化実践Ⅷ」（後期・専門教育科目・選択必修）

## 2 理念（なぜやっているか：教育目標）

### ～講義型授業～

#### ① 基礎的な知識を習得する

学生が、観光の歴史や文化、制度、社会的役割について基礎的な知識を習得し、習得した知識を社会活動や就職活動に活用できるようになることを目指す。

#### ② 幅広く理解する

学生が、人文学や社会学、経済学や経営学など多様な学問を複合的に取り入れた観光学を学ぶことにより、幅広く現代社会や観光産業を理解することを目指す。

#### ③ 思考力を磨く

学生が、実務家教員である講師が提示するイノベーティブなケース・スタディを通じて、観光産業の現状や課題を見出す力を養うことを目指す。

### ～実習参加型授業、実践型授業～



① 社会人基礎力を身につける<主体性、課題発見力>

「観光文化実践」では、学生が自ら計画を立て検証するという一連の研究活動によって“主体性”をもって物事に進んで取り組む力や、校外における研究活動を通じて社会や事業者が直面している現状を分析し課題を明らかにする“課題発見力”“アイデア発想力”を身につけることを目指す。

② 職業観を身につける<観光産業、サービス産業>

学生が、消費者の目線を大切にしながらも、研究活動を通じて産業側の経営者や事業者の立場になることで幅広い“思考力”を身につけることを目指す。

### 3 方法（どのようにやっているか：実践の工夫）

#### ～講義型授業～

① オリジナル教材、書籍の提示

(PowerPoint の映写、MicrosoftTeams への格納および学生による閲覧)

「観光文化総論(1)」「観光事業論」では、指定する教材や配布資料に加えて、実務家教員である講師の経験と知見に基づいたケース・スタディを提示することで、理論や制度をふまえながらも革新的な事業や取組みを展開するまでの過程を具体的に解説している。また、講師は形式や分野は問わず書籍を紹介し、図書館の活用方法を解説している。

② リアクションシート作成、レポート作成

(MicrosoftTeams への課題提示および学生による提出)

「ホテル・マネジメント論」「コンシェルジュ論」では、毎回の授業の後に学生がリアクションシートを提出し、講師が学生からの質問へ回答をすることで、講師が学生個人の理解度を把握し双方向のコミュニケーションを図っている。

③ アクティブラーニング

「旅行事業論」では、前半は教科書を使用しながら理論や事例を学び、後半は、豊島区内にある「まちあるきボランティアガイド」団体の協力を得て、学生自らが「まちあるきプラン」を造成するために現地へ出向き調査をした。最終回の授業では、学生が協力団体へ向けてプランのプレゼンテーションを行った。

④ ゲスト講師

「ホテル・マネジメント論」「コンシェルジュ論」では、各科目に関連する事業や職業に従事する方々を招聘し講義を行ってもらうことで、学生は机上の空論ではなく、現在の社会情勢や背景に即した学習が可能となり、多角的に職業観を養うことができるようになる。

## ～実習参加型授業（観光文化実践Ⅶ）～

### ① 実習先企業研究

「観光文化実践Ⅶ」では、観光事業のひとつである宿泊業の長期実習に参加することで実践的な知識や社会人基礎力を養うことを目的としている。授業では事前学修として個々で実習先企業の研究を行った。また、宿泊業出身のサービスマネジメント専門家による講義を受講することで実習に対する心構えを身に付けることをしている。

### ② 自己紹介書作成

学生が、実習先の企業へ提出するための自己紹介書を作成することにより、実習中の目標を明確に定め、また、自身の強みや弱みを内観することで職業観を養うことをしている。

### ③ 実習中の日報アプリを活用（オリジナルの日報アプリの企画と設定）

実習開始後は、講師が独自に企画し設定をした日報アプリを学生が記録することにより、講師は学生の実習内容や様子を把握することができ、学生の悩みや困りごとの相談に迅速に対応し、かつ、学生のモチベーションの向上を支えることをしている。

※ 実践型授業（観光文化実践Ⅸ）は後期の授業であるため、方法（実践の工夫）は本年の12月末に提出する。

## 4 成果（どうだったか：結果と評価）前期の授業のみ

### ～講義型授業～

#### ② 3-① 授業評価アンケート

おおむね良好であった。

#### ③ 3-② 学生が作成した Microsoft Teams の Forms のリアクションシート、レポート

学生は、学習した専門用語を文章化することで理解を深めることができ、加えて、授業内でできなかつた質問を講師へ直接できることになり、講師は、学生の授業内容の理解度や文章作成能力や語彙の活用力を個人別に把握することができた。また、Microsoft Teams の Forms からゲスト講師への事前質問も収集し授業内で回答することで学生の高い満足度を得ることができた。

※ 実習参加型授業（観光文化実践Ⅶ）の実習は夏休み期間に実施するものであり、実

実践型授業（観光文化実践Ⅸ）は後期の授業であるため、成果は本年の12月末に提出する。

## 5 今後の目標（これからどうするか）

### ～講義型授業～

講師は、実務家教員としての知見や経験をいかしながら、革新的でイノベーティブなケース・スタディの解説やゲスト講師招聘等を積極的に行うことによって、学生が、社会における観光産業の存在価値や地方創生における役割、観光産業で働く意義を正しく理解できるよう指導していく。

## 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

### ～講義型授業～

- ① 各授業の配布レジюме（非公開：MicrosoftTeams へ格納）
- ② 学生が作成したリアクションペーパー、レポート（非公開：MicrosoftTeams へ格納）
- ③ 学生が作成したワークシート（非公開）

# ティーチング・ポートフォリオ

学科：観光文化学科 氏名：山田祐子

(記入日：2023年2月13日 後期分を記入)

## 1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

### ～前期～

「観光事業論」(前期・専門教育科目・必修)、「観光文化総論(1)」(前期・専門教育科目・必修)、「観光文化専門演習(1)」(前期・専門教育科目・必修)、「卒業研究演習」(通年・専門教育科目・必修)、「卒業研究」(通年・専門教育科目・必修)、「旅行事業論」(前期・専門教育科目・選択必修)、「ホテル・マネジメント論」(前期・専門教育科目・選択必修)、「コンシェルジュ論」(前期・専門教育科目・選択必修)、「観光文化実践Ⅶ(観光事業)」(前期・専門教育科目・選択必修)

### ～後期～

「温泉地理学」(後期・共通教育科目・選択必修)、「観光文化総論(2)」(後期・専門教育科目・必修)、「観光文化入門演習」(後期・専門教育科目・必修)、「観光文化専門演習(2)」(後期・専門教育科目・必修)、「卒業研究演習」(通年・専門教育科目・必修)、「卒業研究」(通年・専門教育科目・必修)、「ブライダル事業論」(後期・専門教育科目・選択必修)、「観光文化(江戸・東京)」(後期・専門教育科目・選択必修)、「観光文化実践Ⅸ(PBL)」(後期・専門教育科目・選択必修)

## 2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

### ～講義型授業～

#### ① 基礎的な知識を習得する

学生が、観光の歴史や文化、制度、社会的役割について基礎的な知識を習得し、習得した知識を社会活動や就職活動に活用できるようになることを目指す。

#### ② 幅広く理解する

学生が、人文学や社会学、経済学や経営学など多様な学問を複合的に取り入れた観光学を学ぶことにより、幅広く現代社会や観光産業を理解することを目指す。

#### ③ 思考力を磨く

学生が、実務家教員である講師が提示するイノベーティブなケース・スタディを通じて、観光産業の現状や課題を見出す力を養うことを目指す。

### ～実践型授業～

① 社会人基礎力を身につける<対象：主体性、課題発見力>

「観光文化実践」では、学生が自ら計画を立て検証するという一連の研究活動によって“主体性”をもって物事に進んで取り組む力や、校外における研究活動を通じて社会や事業者が直面している現状を分析し課題を明らかにする“課題発見力”“アイデア発想力”を身につけることを目指す。

② 職業観を身につける<対象：観光産業、サービス産業>

学生が、消費者の目線を大切にしながらも、研究活動を通じて産業側の経営者や事業者の立場になることで幅広い“思考力”を身につけることを目指す。

### 3 方法（どのようにやっているか：実践の工夫）

#### ～講義型授業～

① オリジナル教材、書籍の提示

（PowerPoint の映写、MicrosoftTeams への格納および学生による閲覧）

「観光文化総論(2)」では、指定する教材や配布資料に加えて、実務家教員である講師の経験と知見に基づいたケース・スタディを提示することで、理論や制度をふまえながらも革新的な事業や取組みを展開するまでの過程を具体的に解説している。また、講師は形式や分野は問わず書籍を紹介し、図書館の活用方法を解説している。

② リアクションシート作成とフィードバック

（MicrosoftTeams への課題提示および学生による提出）

「ブライダル事業論」では、毎回の授業の後に学生がリアクションシートを提出し、講師が学生からの質問へ回答をすることで、講師が学生個人の理解度を把握し双方向のコミュニケーションを図っている。

③ 学生発表会を企画実施

「ブライダル事業論」では、学生の主体的な学びを促すため、期末レポートと連動した学生発表会を企画した。学生同士でフィードバックを行った。

④ ゲスト講師を招聘

「ブライダル事業論」では、各科目に関連する事業や職業に従事する方々を招聘し講義を行ってもらうことで、学生は机上の空論ではなく、現在の社会情勢や背景に即した学習が可能となり、多角的に職業観を養うことができるようになる。

⑤ 資格取得を支援

「観光文化（江戸・東京）」では、「東京シティガイド検定」の資格取得を支援した。

#### ～実践型授業（観光文化実践IX：PBL/産学連携）～

**授業概要：**PBL をテーマに株式会社サンシャインシティと連携し、学生は、サンシャイン

シティが主催する“子供が遊び・学ぶことができる”イベント「サンシャインシティプレーパーク」において“地域の子供たちへ遊びを通じてリサイクルの大切さを伝えよう”をスローガンに学内で回収したペットボトルやキャップ、トイレットペーパーの芯といったリサイクル品を使用して子供たちと一緒にオモチャを作るワークショップを企画運営した。

① チーム研究

対象となる2～4年生の総勢16名を3チームに編成し、リーダー、副リーダー、会計係、広報係、整理係等を任命することにより、学修の量や質の偏りを分散させた。また、複数のチームにすることにより、成長欲求に基づく向上心が育まれプロジェクト成功の要因となった。

② 学生による企画

学生は、講師と企業が設定した条件に基づき、自ら出店のための企画を考え、企業側へ提案プレゼンテーションを行い、企業からの指摘を受け改善を繰り返した。

③ 学生による準備と運営

学生は、イベント当日へ向けて準備計画を作成しチーム内で分業をしながら準備を行った。また、出店に伴う備品購入や予算管理まで行った。当日は、出店ブース運営のための運営計画（オペレーションマニュアル）や人員計画（シフト作成）を作成し実行した。

④ 学生による効果測定ならびに成果報告

学生は、連携先の企業のオフィスを訪問し、担当部署や担当部署以外の社員へ来場者数、客層、時間帯別の入り込み等の実績を報告した。くわえて客人の様子から気づいた点を改善案として提示した。

#### 4 成果（どうだったか：結果と評価）前期の授業のみ

##### ～講義型授業～

※方法①～⑤に対して

① 授業評価アンケート

おおむね良好であった。

② 講師による個人の把握

学生が Microsoft Teams の Forms のリアクションシート、レポート作成することにより、学生は、学習した専門用語を文章化することで理解を深めることができ、くわえて、授業内で質問が出来なかった点を講師へ直接できることになり、講師は、学生の授業内容の理解度や文章作成能力や語彙の活用力を個人別に把握することができた。また、Microsoft Teams の Forms からゲスト講師への事前質問も収集し授業内で回答

することで学生の高い満足度を得ることができた。

③ 就業意識の向上

学科の卒業生をはじめ現役の実務者をゲスト講師として招聘することにより、学生は具体的に自身の将来像を描くことにつながった。講師にとっても学生個人の興味や就業意識を把握することができた。

④ 資格試験受験者の排出（東京シティガイド検定）

今期は受験者を2名排出し、うち1名が合格した。

～実践型授業（観光文化実践Ⅶ：観光事業）～

※ 観光文化実践Ⅶを履修した学生は夏休み期間に宿泊産業で実習を行ったため、後期にて成果を記載する。

**授業概要：**「観光文化実践Ⅶ」では、学生は、観光事業のひとつである宿泊業を講義内で包括的に学び、夏季に長期実習に参加することで実践的な知識や社会人基礎力を養うことを目的としている。授業では事前学修として個々で実習先企業の研究を行った。また、宿泊業出身のサービスマネジメント専門家による講義を受講することで実習に対する心構えを身に付けることをしている。

① 宿泊産業に関する基礎的な知識の習得

学生は、社員同等の業務を行うことにより、宿泊業の基礎的な業務を知ることができ授業内では知り得ない実態の一部を観察することができた。

② 学生が自身の長所短所やスキルを発見する機会となった。学生は、講師が企画設定したアプリで日報を提出することにより、常に自身を振り返り自身の長所短所を整理することができた。その結果、全ての履修生が最も不足しているスキルを語学力であるとしている。

③ インターシップ報告書の執筆

学生は、自身の体験を文章化することにより、自身が設定した目標に対する成果を十分に振り返ることができた。また、業界への興味や進路の方向性を明確にすることになり、なかでも3年生は宿泊業界を志望することに繋がった。

④ 講師はインターシップに臨む学生の全体傾向や特性を把握することができた（川村学園女子大学研究紀要第35巻へ投稿済み）

社会人基礎力については自己評価であるため、個人差が見受けられるが、担当教員が学生の思考や傾向を把握することができ、事後学修や今後の指導へいかすことができた。

～実践型授業（観光文化実践Ⅸ：PBL）～

※方法①～④に対して

① 授業評価アンケート

最高評価を得た。学生は、PDCA を繰り返し状況に応じて臨機応変に対応しながらプロジェクトを終了させることができたことで大きな達成感を得ることができ、高い授業満足度につながったものと考えられる。

② 社会人基礎力の伸長

授業前と後で学生の自己評価による社会人基礎力を計測した（10段階評価）。全体平均で2.4から3.7へ上昇し、最も差異があった学生は5.0上昇した。自己評価が下がった者は1人いなかった。

③ 説明力（論理的思考）の向上～成果報告会において～

プレゼンテーションのスキルが磨かれたことに加え、論理的思考を身に付けることができた。また、企業側は学生が提案した改善点により次年度との検討事項とすることができた。

## 5 今後の目標（これからどうするか）

### ～講義型授業～

講師は、実務家教員としての知見や経験をいかしながら、革新的でイノベーティブなケース・スタディの解説やゲスト講師招聘等を積極的に行うことによって、学生が、社会における観光産業の存在価値や地方創生における役割、観光産業で働く意義を正しく理解できるよう指導していく。

### ～実践型授業～

講師は、「観光文化実践」と「演習」を通じて、学生へ実業界の人材や事柄に接することができる機会を提供する。そのためにも、講義型授業にて習得した知識と実践型授業との連携を図る。例として、ホテル・マネジメント論とブライダル事業論を履修した学生が実践的に学ぶことができる科目を「観光文化実践（観光事業）」とし、企業訪問や企業インタビューを通じて業界理解を深めさらには就業意識を高めしていく。

## 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

### ～講義型授業～

- ① 各授業の配布レジュメ（非公開：Microsoft Teams へ格納）
- ② 学生が作成したリアクションペーパー、レポート（非公開：Microsoft Teams へ格納）
- ③ 学生が作成したワークシート（非公開）
- ④ 講師が執筆した「川村学園女子大学研究紀要第35巻」（製本）



～実践型授業（前期：観光文化実践Ⅶ 観光事業）～

- ① 学生が作成した自己紹介書～自己分析、企業研究、業界研究～（非公開）
- ② 学生が執筆した「インターシップ報告書」（製本）

～実践型授業（前期：観光文化実践Ⅶ PBL）～

- ① 学生の活動記録（大学ホームページ、学科 NEWS にて公開中）
- ② 学生が作成した成果報告書（非公開）
- ③ 学生が自己評価した社会人基礎力（非公開：MicrosoftTeams へ格納）

以上